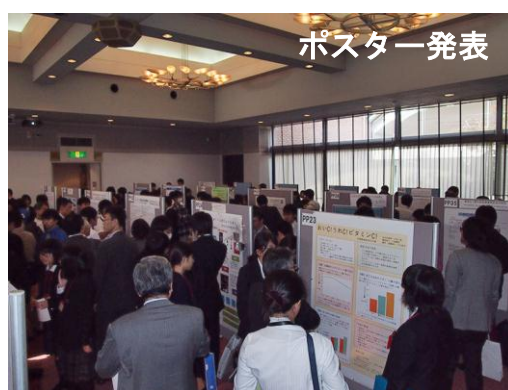


# 第 12 回高校化学グランドコンテスト

## 募金趣意書



第 12 回高校化学グランドコンテスト

実行委員会委員長 入江 幸右衛門

謹啓 皆様におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、「第12回高校化学グランドコンテスト」最終選考会を2015年10月24日(土)・25日(日)の2日間にわたり、大阪府立大学Uホール白鷺におきまして、開催する運びとなりました。本コンテストは、大阪市立大学、大阪府立大学、読売新聞大阪本社が主催し、2004年の第1回から数えて今回で12回目を迎えます。高等学校及び高等専門学校(高専)の学生自らが自主的な研究活動を楽しみながら科学的な創造力を培う機会を提供することにより、将来の科学者を育成し、大学としての社会に貢献することを目的としてこれまで実施して参りました。本コンテストは徐々にその規模を拡大し、近畿圏以外に宮城県、福島県、東京都、茨城県、千葉県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、岡山県、島根県、愛媛県、福岡県、佐賀県、沖縄県など全国からの参加があり、おかげさまで質・量ともに年々増えて盛会となっております。そして今回、第10回、11回大会に引き続き、本事業の今後の発展、およびグローバル人材育成の観点から、会期を2日間とし、海外の高校生を招へいして「国際版 高校化学グランドコンテスト」を開催いたします。化学を通じて他国の高校生と交流する機会を得ることは、高校生にとってよい刺激となり、教育上も大きな波及効果が得られるものと考えております。

本コンテストでは、参加に要する費用は基本的に参加者の自己負担としておりますが、遠方からの参加の場合に、旅費の工面が本コンテストへ参加する上での主な障害となっております。このような資金面での理由で本コンテストへの参加を断念される事は主催者にとっては大変残念であるため、最終選考会で発表を行うグループについては、その旅費の一部を補助することにしております。旅費の補助も含め、本コンテストの運営は主催団体による拠出によって本来実施されるべきですが、大学の会計法上、参加者旅費の補助は行えないという制限が課せられております。また、海外からの高校生の招へいには、滞在費等の負担が必要となりますので、より大きな額の補助金を必要としております。そこで、大学および化学に関わりのある多くの企業・団体ならびに個人の皆様からの、資金面でのご支援をお願いする次第です。景気が不安定な昨今、このようなお願いを申し上げますのは誠に心苦しいことではありますが、本コンテストの趣意ならびに諸事情をご賢察いただき、ご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

謹白

## 第12回高校化学グランドコンテストの概要

1. 会議の名称：第12回高校化学グランドコンテスト
2. 開催日：2015年10月24日（土）・25日（日）
3. 開催場所：大阪府立大学Uホール白鷺（大阪府堺市中区学園町1-1）

### 4. 主催団体など

#### (1) 主催

大阪市立大学、大阪府立大学、読売新聞大阪本社

#### (2) 後援（第11回コンテスト）

文部科学省、教育委員会（大阪府・大阪市・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・滋賀県・三重県・北海道・宮城県・福島県・茨城県・群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・長野県・山梨県・静岡県・愛知県・岐阜県・岡山県・島根県・鳥取県・徳島県・香川県・愛媛県・福岡県・長崎県・大分県・宮崎県）、首都大学東京、横浜市立大学、名古屋市立大学、お茶の水女子大学、大学コンソーシアム大阪、南大阪地域大学コンソーシアム、化学プラットホーム@関西、読売テレビ

#### (3) 協賛（第11回コンテスト）

日本化学会、日本化学工業協会、近畿化学協会、パナソニック株式会社、株式会社遊タイム出版、株式会社柴尾商店、大阪薬研株式会社、和光純薬工業株式会社、大研科学産業株式会社、シュプリングアー・ジャパン株式会社、ナカライテスク株式会社、株式会社リガク、シグマアルドリッチジャパン合同会社、株式会社アズバイオ、八洲薬品株式会社、南出理化商会、株式会社化学同人、株式会社東京化学同人、東京化成販売株式会社

### 5. 高校化学グランドコンテストの目的

「高校化学グランドコンテスト」は、高等学校及び高等専門学校等の化学クラブの自由課題や、化学課程の課題研究等で行っている学習研究活動を支援し、高校生等自らが自主的な研究活動を楽しみながら科学的な創造力を培う機会を提供することを目的としています。本活動を通じて将来の科学者を育成することは社会貢献にもあたると考え、大学を挙げて運営を行っております。本コンテストは2004年度より開始し、今年で12回目となりますが、(1) 自らの習熟度に応じて科学の楽しさを体験し創造力を培うという点、および(2) 第一線の科学者である大学教員が高校の教育者と直接タイアップして、高校生の自主的な学ぶ活動を持続的に支援する点に大きな特徴があります。

本コンテストでは、「発表することの大切さ」を体験・実感してもらうために、着眼点のユニークさと、習熟度または自主的研究の成果を発表する公の場（インターネット配信を含む）を提供し、優れた研究発表を行ったグループ・個人を表彰しています。表彰には最高の榮譽となる文部科学大臣賞をはじめ、大阪府知事賞、大阪市長賞、大阪市立大学長賞、大阪府立大学長賞、読売新聞社賞などの各賞に加え、スポンサー企業によるパナソニック賞、シュプリングアー賞を設けています。

本コンテストでは、大阪府内および近県を始めとする全国他府県において、高校生や高等専門学校

生の化学への関心を高めることにより、科学教育のレベルアップを図ることを目指しています。第2回コンテスト以降は、近畿圏以外の高校からの参加を歓迎し、知名度の向上とともに着実に全国レベルへの展開が進んでいます。また、企業や社会的な影響力の大きな新聞社などにご協力いただき、より大きな事業となっております。学術団体として、日本化学会、近畿化学協会からもご協力をいただいております。

## 6. 第12回高校化学グランドコンテストの概要

- ① 本コンテストは、エントリーした高校生による研究成果の発表の場であると同時に最終選考の場でもある。最終選考は、化学の分野において第一線で活躍する大阪市立大学と大阪府立大学、および他大学の教育研究者、協賛団体の協力の下で行い、高校生との直接の議論も行いながら実施する。最優秀賞は、文部科学大臣賞、大阪府知事賞、大阪市長賞、優秀賞（主催者賞）は大阪市立大学長賞、大阪府立大学長賞、読売新聞社賞とし、金賞他いくつかのカテゴリーにもとづく多くの特別賞を準備する。
- ② 本コンテストは大阪市立大学、大阪府立大学、読売新聞大阪本社との共催（共同主催）で実施し、三者より選出された実行委員からなる高校化学グランドコンテスト実行委員会が、関連研究者の協力を得て企画・運営を行う。
- ③ 共催新聞社は、事前に本教育事業の開催を社告にて自社新聞（朝刊）に掲載し、当日取材と特集記事（1乃至2面、10段記事／面、下5段スポンサー広告）を後日掲載する。
- ④ 他社新聞社など報道関係にも、最終選考会当日の取材は可能とする。ただし、ビデオ録画、放映などについては、共催側との事前協議の対象とする。著作権、知的財産所有権は、前例・慣行により主催（共催）者がもつ。
- ⑤ 本コンテストの後援は、文部科学省はじめ、関連学会などの学術団体、大阪府・大阪市および都道府県教育委員会などに広く願います。コンテストのスポンサーは、少なくとも後援者または協賛団体となつていただく。
- ⑥ 本コンテストの全内容は、インターネットを通じてリアルタイムで配信し、高校等におけるe-Learningの一環としても活用できるようにする。インターネット配信は、協賛団体などの技術支援を得て、主催側が責任をもって行う。各家庭への個別ストリーミング配信は、必要に応じて企業のプラットフォームを活用させていただく。
- ⑦ 本コンテストの開催については、開催実施要項が確定次第、共催側、協賛側、後援側、その他スポンサー側のホームページに掲載する。
- ⑧ 参加申し込み方法： 一般参加申し込みは、共催新聞社を通じる。ただし一部を招待とし、府内の高校などの課外活動の一環として参加も可能とする。
- ⑨ 参加予定者数： 700名（2日間の延べ人数）
- ⑩ 参加費用： 無料

## 7. 高校化学グランドコンテストの構成

### (1) 開催プログラム (予定)

10月24日(土)

13:00～ 受付開始  
14:00～15:30 ポスター発表(前半)  
15:30～17:00 ポスター発表(後半)  
17:30～18:30 レセプションパーティー

10月25日(日)

8:45～ 受付開始  
9:45～10:15 開会式  
10:15～11:30 口頭発表  
11:30～12:30 昼食休憩  
12:30～14:15 口頭発表  
14:15～14:30 休憩  
14:30～15:30 特別講演・Brian K. Breedlove 先生(東北大学大学院理学研究科化学専攻)  
15:30～16:30 結果発表・表彰式

※ 時間につきましては、変更になる場合があります。

### (2) 使用言語

日本語あるいは英語

### (3) 要旨集

講演要旨集を発行(第11回コンテストはA4版269ページ)。協賛団体の広告を掲載。

## 8. 過去開催状況

開催年	開催地	発表件数	参加校数	参加者数
2004(第1回)	大阪市立大学	33	21	275
2005(第2回)	大阪市立大学	26	15	247
2006(第3回)	大阪市立大学	33	22	251
2007(第4回)	大阪市立大学	33	24	252
2008(第5回)	大阪市立大学	40	26	293
2009(第6回)	大阪市立大学	41	32	319
2010(第7回)	大阪府立大学	49	35	294
2011(第8回)	大阪府立大学	48	35	300
2012(第9回)	大阪市立大学	62	48	479
2013(第10回)	大阪市立大学	66	46	851*
2014(第11回)	大阪府立大学	67	40	680*

\*2日間の延べ人数

## 9. 組織

委員長	入江幸右衛門	大阪府立大学理学系研究科長・理学部長
副委員長	保尊 隆享	大阪市立大学理学研究科長・理学部長
事務局長	早川 滋雄	大阪府立大学理学系研究科教授
監事	二河 伊知郎	読売新聞大阪本社編集局生活教育部長
監事	中沢 浩	大阪市立大学理学研究科教授
委員	小寄 正敏	大阪市立大学理学研究科教授
委員	児玉 靖司	大阪府立大学理学系研究科教授
委員	松坂 裕之	大阪府立大学理学系研究科教授

## 10. 問い合わせ先（事務局）

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学大学院 理学系研究科内 第12回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局  
事務局長 早川 滋雄（はやかわ しげお）（大阪府立大学大学院理学系研究科 教授）

TEL 072-254-9162 FAX 072-254-9163 E-mail: gracon12@ao.osakafu-u.ac.jp

高校化学グランドコンテストホームページ <http://www.gracon.jp/gracon2015>

### 11. 寄附金を必要とする理由

本コンテストの開催に要する経費の概算は、「12. 総事業予算（概算）」のとおり740万円である。この費用のうち主催団体の大阪市立大学、大阪府立大学が合計350万円を分担金として拠出するが、会計法上、参加者旅費の補助は行えないという制限が伴う。

本コンテストでは参加に要する費用は基本的に参加者の自己負担としているが、日本全国からの参加者があり、特に大阪から遠方の場合には、発表する高校生全員と指導される先生の旅費の工面が困難な事例も発生している。旅費工面がままならないために本コンテストへの参加を断念せざるを得ない事態は主催者としては大変不本意なものである。そこで最終選考会で発表を行うグループについては、その旅費を補助することとしている。今回の募金はそのための財源として活用するものである。

### 12. 総事業予算（概算）

総予算 7,400,000 円

（内訳） コンテスト準備費・運営費・・・4,300,000 円  
旅費補助（海外招聘校含む）・・・2,000,000 円  
予備費・・・1,100,000 円

2015年4月1日  
大阪府立大学大学院理学系研究科  
第12回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局  
事務局長 早川滋雄（大阪府立大学 大学院理学系研究科 教授）